

## 起案書

第 59 回近畿理学療法学会

大会長 石井 光昭

準備委員長 中本 隆幸

- 学会テーマ『近未来への道標』（仮）

- 開催日程

2020 年 3 月 29 日（日）

- 会場

みやこめッセ（京都市勧業館）

- 背景

### 1. 近畿理学療法学会の意義と課題

本学会は、過去 58 回の歴史があり、これまで、若い理学療法士の研鑽の場としての役割を担ってきた。日本理学療法学会が各専門の分科学会に分かれた現在、幅広い理学療法の専門性が一堂に会す学会としては、近畿ブロック会員にとっては本学会が最大のものになった。

一方で、会員数の増加にも関わらず、学会参加者が少ないという課題もある。この背景には、理学療法士の活動の場、職域、対象疾患、求められる知識・技術も多様となり、全ての会員のニーズに応える企画が難しい側面もあることが関係していると思われる。また、近年では、各専門の講習会、研修会が多く開催されており、研鑽の場を本学会以外に求める会員も多いことも影響していると推察される。

以上のことから、近畿学会の意義・役割についての議論もあり、今後の在り方（近畿学会の目指す方向）について模索していく必要があると思われる。

### 2. 理学療法士の現状と将来への課題

高齢化の進展、テクノロジーや基礎医学の急速な進歩は、理学療法士を取り巻く環境を変化させる。対象者は多様化し、社会的負託に応えるためには、より高度な専門性が求められる。Next decade では、今以上に、“Think globally, act locally.”な取り組む姿勢が求められると思われる。

また、需給バランスに関わる問題によって、理学療法士の「将来像」に懸念、不安を抱く会員も少なくないと思われる。

- 開催の趣旨

以上のことから、本学会では、最近の動向を俯瞰し潮流を理解して、近未来において予想される課題を乗り越えるための道標を提示したい。

参加者それぞれが、更なる高みを目指して、自身の「臨床“力”を問う」機会となることを望む。若い理学療法士が、臨床の“感性”つまり、対象者の Unmet needs を見逃さず、そして、その問題の解決策を創り出す力を培うことに繋がる企画をする。

また、ブロック学会は、国際学会、専門分科学会の規模や内容を縮小したものではなく、本学会独自の役割（近畿ブロックの抱える課題など）を踏まえた内容とする。

講演では、第一線で活躍している理学療法士あるいは医師、関連職種から、広い視野で将来（Next decade）を見据えて、今何をしなければならないか、何が求められるかを示唆していただく。